

2020年4月13日

血管腫/血管奇形の診療を受けている患者さんならびに保護者の皆様へ

日本国内での新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の感染拡大を受けて、緊急性の乏しい診療の中止や延期を求める行政、関連学会および医療機関からの要請に対し、日本血管腫血管奇形学会は以下のように考えております。

COVID-19 のウイルスは主に飛沫により感染するため、鼻口のどなど顔と首に関連した診療は高い感染リスクを有します。鼻口のどは呼吸する際の空気の通り道であるため、ウイルスの感染経路となり、患者さんが気づかずにウイルスに感染している場合には、同じ病院内で診療を受けている他の患者さんや医療スタッフに感染を広げてしまう危険があります。また感染のある状態で手術や硬化療法などの治療を全身麻酔で受けられると、治療や全身麻酔による患者さんへの体の負担から、病状が悪化する可能性も否定できません。

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 は持病があると重症化しやすいといわれています。血管腫血管奇形がその持病に該当するかについては一概に申し上げることはできませんが、病変が鼻口のどから気管肺や胸部に存在する患者さん、あるいは心臓や肺に負担がかかるほどその病状が進んでいる患者さんたちには、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 が肺炎に移行して重症化しやすい可能性は予測されます。ただし、そのような根拠や報告は現時点では示されてはいません。

すでに治療を計画されている方におかれましてはご心配な点も多いことと思います。血管腫/血管奇形の診療につきましては下記のようにご対応いただけますようお願いいたします。

血管腫/血管奇形の予定された治療を実施するか延期するかについては、各患者さんの状態や治療の内容によって、その方針が異なります。さらにお住まいの地域の感染状況の違いを考慮して決定されますので、主治医の先生と、計画されている治療がこのタイミングで必ず行われなければならないのか、よくご相談するようお願いいたします。

定期受診、評価などの診察は、感染の可能性がある時に受ける必要はありません。相談の際に、発熱や倦怠感、嗅覚・味覚障害などご自身の体調や、最近の旅行の有無、最近居住地の変更があったか、新型コロナウイルス感染者との濃厚接触の可能性など、詳しくお聞かせいただくと、ご自身ならびに周囲にとって安全な治療を行うことができます。

電話再診および薬の処方にも多くの施設が対応しております。受診前に受診予定の医療施設に電話にて確認されることをお勧めします。

患者さんご自身とご家族、また他の患者さんや医療スタッフが安全に診療を受けられますように、ご協力をお願い申し上げます。

日本血管腫血管奇形学会理事長
杠 俊介